

令和4年度 教職員対象学校評価

- 1

教育目標

教育基本法及び学校教育法の主旨に則って高等普通教育を施し、併せて天理教の教義に基づく信条教育を行うことを目的とする。
- 2

校訓

神一条の精神　ひのきしんの態度　一手一つの和
- 3

教育方針

(1)信条教育を具体的な形で展開する　①「祈り」のある教育を実践する　②「報恩感謝」を身につける教育を実践する　③「互いにたすけあい」ができる教育を実践する
(2)与えられた徳分の一層の伸長を図る　①「生徒の希望進路」の実現に全力を尽くす　②「部活動および特別活動」の充実を図る

	重点目標	No	目標達成の方策	評価	令和4年度 取り組んできたことの成果と課題	具体的な方策（令和5年度学校評価における改善のための方策）
信条教育	祈りのある教育	1	厳肅な態度で参拝するよう指導の徹底を行うとともに、信条教育の意識を高める	A	毎週月、火、水曜日は、教室にて遙拝後、十全の守護・八つのほこり・論達の拝読を行い、教えに繰り返し触れる機会を得た。毎週木、金、土曜日は、本部神殿にて全校参拝させていただき、学校参拝にて教員が生徒の前でおつとめをつとめ、真剣な祈りを背中で伝えることができた。生徒の人のために祈る思いを更に育むことができればと思う。	教祖140年祭三年千日のスタートとして、週に一度の論達拝読を通して、教員・生徒が共に、教祖ひながたの道を辿ることを目指す。学校参拝にて、教員が生徒の前でおつとめをつとめ、更には日々の学校生活で、身上の生徒に声を掛け、おさづけの理を積極的に取り次ぐ。
	報恩感謝を身につける	2	ひのきしんの活動に生徒と共に積極的に取り組む	A	何事にも報恩感謝の気持ち（ひのきしん精神）をもって取り組むように働きかけた。今後も継続して進める必要がある。	「水を飲めば水の味がする」など教祖のひながたを手本に、親神様の大きな御守護に感謝して通ることを心掛け、何事も報恩感謝の気持ちで取り組む意識を育む。
	慎みと助け合いの精神を育てる	3	慎みとたすけあいの精神を意識して日常生活を送るよう指導する	A	ないものを不足するのではなく、今あるものに感謝の思いを持つように指導した。あらゆる場で信仰の喜びを伝えていくことを更に進めていければと思う。	「人を救って、我が身たすかる」など教祖のひながたを手本に日々通ることを心掛け、信仰の喜びをあらゆる場で伝えていく。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	4	頭髮、服装など身なりを整えるように指導する	B	毎朝の登校指導、定期的に下校指導を行い、通学のマナーを指導した。	学校内や、登下校時、天理本通り・天理駅等で継続して指導する。
		5	あいさつの励行、時間厳守するように指導する	A	登校時や休み時間など挨拶や会話を積極的に行い時間の大切さを論した。	挨拶ができない生徒がやや増えてきているようなので、今まで以上に教員から声をかけていく。
		6	校舎内外の美化と公共物を大切にするように指導する	A	ホームルームやクラブ等でひのきしん・清掃の大切さを教え、清掃時には必ず教員が一緒に行うよう徹底した。	清掃時には教員が必ず一緒に行い、ひのきしん・清掃の大切さを教える。また、クラブ活動時やホームルーム等も同様とする。
		7	生徒に規範意識の向上を日常的に働きかけをする	A	校内外でのマナー違反の事例を伝え、人々に迷惑をかけないように話をした。	社会のマナー違反の事例や自転車の接触事故や苦情等について話をし、他人に迷惑をかけないことや、事故に遭わないことについてこまめに指導する。
	指導の協力、連携を図る	8	教職員の意思統一と共通理解、共通行動をするように努力する	B	年間を通じて職員会議等で校則の確認をし、生徒についての情報共有を行った。	生徒についての情報を共有するとともに、職員会議や学年会等で校則に関する共通認識を持つ。
		9	保護者等へ学校の指導方針を理解していただくよう努力する	A	メール・電話連絡・家庭訪問などを行い、学校の指導方針を理解してもらい、保護者との連絡を密に取った。	学校の指導方針を理解してもらうため、電話連絡・メール・家庭訪問を行い、保護者との連絡を密にする。
	いじめ問題への対応	10	いじめ問題の重大性をすべての教職員が認識し、未然防止、報告・連絡・相談を確実にを行い、組織的に取り組む	A	冷やかし・悪口・かいげ口等、生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む）で、当該行為の対象となった生徒が心身の苦痛を感じているものは”いじめ”であるとの定義を確認し、「いじめとこのアンケート」等できいじめ事象の把握に努めた。	あらゆる教育活動を通して、いじめは重大な人権侵害であり、決して許されない行為であることを生徒に認識させる。また、アンケート調査や個別面談を通して、いじめの未然防止、早期発見に努める。
		11	いじめの様態や特質、原因、背景、具体的な指導上の留意点などについて、教職員間の共通理解を図る	A	学年会で、生徒の様子や「いじめとこのアンケート」（第1学期に実施）の結果から気になるケースについて話し合い、いじめ事象を把握した際には、いじめ防止対策委員会を開き対応を検討した。SNSを用いた事象など、把握が難しいものが増えているとの認識をもち、対応を考える必要がある。	いじめは、どの子どもにも、どの学校でも起こり得るものとの共通認識をもち、いじめの兆候を見逃さないように努めるとともに、いじめ事象を把握した場合は本校の「いじめ防止基本方針」に従い速やかに対策を講じる。
進路指導	生徒の希望進路の実現	12	ホームルーム、進路ガイダンス等において進路情報を提供し、生徒の意識付けを図る	A	【1・3類】 今年度から進路ガイダンスの在り方を変更し、できるだけ個々に応じた講座を選択できるようにした。また、進路講演においても以前に実施していただいた方の中から好評だった講師に依頼することで、充実した内容を実施することができた。 【2類】 進路関係のイベントやオープンキャンパス等にオンラインで参加することにも慣れ、対面での講演会などは学校で実施できた。大学入学共通テストは3年目に突入したが、明らかに従来の対策では太刀打ちできない。生徒と共に教員も自己研鑽を怠らないよう、定期的に勉強会などを実施した。	生徒個々の進路に応じたガイダンス、その時の情勢を踏まえた講演を実施する。令和7年度入試から新課程入試となる。そこにむけての情報を収集し、必要な時期に教員研修を実施する。
	基礎学力の向上	13	生徒が予習、復習など毎日の家庭学習をするように指導を行う	B	【1・3類】 進路通信を活用し、定期考査・課題テスト・模擬試験に向けての学習を促すことで、学習習慣の定着を図った。 【2類】 上位層をさらに伸ばし、下位層を引き上げるために個別に対応する必要がある。特に下位層の生徒は、学習習慣がついていない生徒も目立ち、不登校気味の生徒もいる。教員でそういった生徒の情報を共有し、手厚い指導を心掛けた。	令和5年度から2年生に春季課題テストを実施する。年間を通して1カ月半に1回はなんらかのテストがある形となった。テストをうまく活用することで生徒の学習意欲を高め、日ごらの学習時間の確保に努めたい。 1・3類の学力層の幅は大きく、ICT教材などを活用し、個々に応じた学習の在り方を模索する。
	授業内容、技術の向上	14	生徒の学力を最大限に高める授業内容、進度、教え方の工夫をする	B	【1・3類】 全員受験模試の結果報告を学年会で実施した。担当クラス以外の生徒の状況を理解する良い機会となった。しかし、1類の学力層の幅は大きく、普段の授業では上位層・下位層に焦点を当てることは難しい。 【2類】 進路指導部会において全員受験の分析を行い、情報を共有するとともに改善すべき点を模索していった。また、ICTを効果的に利用するためのツールを探し、可能なものは導入していった。	指名者講習、入試準備講習、国公立講習とある中で、今年度検討した私大向けの講習の確立に向けて、講習内容を吟味し、次年度から実施できるように検討する。
	生徒の意欲、関心の向上	15	生徒の疑問や質問を真摯に受け止め、授業にフィードバックするよう努力する	A	【1・3類】 生徒が疑問や質問を投げかけやすい雰囲気作りに気を配った。進路通信を活用し、月に1回進路・学習について意識づけを行った。生徒の進路・学習に対する意識はガイダンス・講演の直後には高くなっているが、継続できていないのが現状である。事前・事後の指導が課題である。 【2類】 生徒の興味、意欲を刺激するのに有効だと思われるツールを積極的に利用した。昨年度に続き、校外で実施される模試や資格試験等を積極的に受験させ、自分の立ち位置を客観視させることに努めた。	2類進路指導部会において学年主任から各学年の模試成績や学習の様子などを報告し、情報を共有するとともに改善すべき点を模索していく。また、Chromebook導入2年目を迎え、それをどのように活用していくのか検討を重ねる。
					生徒が疑問や質問を投げかけやすい雰囲気作りに気を配る。ガイダンスや講演を利用して、「なぜ勉強をする必要があるのか？」という生徒が抱きやすい疑問に生徒自身で答えが見つけられるようにする。そのために「いま」だけではなく「未来」を考えるきっかけを与え、今後起こるであろう社会問題を提示し、自分の将来を考えるきっかけを与える。	学習意欲が旺盛で、自ら学びを進めている生徒と、真逆の生徒と両方がいる状況である。しかしながら、ほぼ全員が大学進学希望なので、目標に向かって進むことができるよう、促していきたい。また生徒が教員に質問できるように雰囲気を作る努力が必要である。自校実施できる3年生の模試が増えたので、受験を促したい。また私大専願の生徒にはそれに特化した模試もあるので、併せて紹介していきたい。
人権教育	人権教育、研修の充実	16	人権ホームルームの系統だった取り組みをする	A	なかまづくりとネットモラルの関わり等社会問題も取り上げ、タイムリーな内容の人権教育にも取り組んだ。確かな人権意識育成のために3年間を見据えて、実情や世情を見つめながら学ぶ計画を立てていく。	次々と生起する人権課題に常に目を向けて関心を持ち続け、あらゆる矛盾に対して敏感であることが大切である。確かな人権意識をもった生徒育成のために3年間を見据え、各学年・各類の実情に合わせながら人権教育のあり方を工夫していく。
特別活動等	特別活動の充実を図る	18	生徒会活動、ホームルーム活動の活性化を行う	A	命や人権感覚に関わる内容についての研修を行った。現状に合った有意義な研修の場をもつために、教職員の要望、研修内容や依頼講師に関する情報を収集しながら検討していく。	学校・生徒の実情を踏まえ、有意義な研修となるために、教職員からの要望も聞きながら検討していく。また、学校外の研修に参加しやすい雰囲気を作っていくために、情報提供・情報交換をこまめにしていく。
	部活動の充実を図る	19	部活動を通して心身の成長を図るとともに、顕著な成績を収められるように努力する	A	今年度の天高祭は2日間の実施に戻すことができた。また初めての試みとして、クラス出店を全学年全クラスが行った。学級担任の負担は大きくなったが、充実した天高祭になったと思う。 新型コロナウイルス感染防止対策に十分に留意した。怪我をしないように無理のない活動計画を立て、効率の良い練習方法を模索し、成績を向上させるように努めた。	新入生歓迎クラブ発表会学園祭で各クラブ・クラスの参加により、学校生活を充実させる。生徒会が主体的に活動し学校生活の活性化を図る。
研修	教員の指導力の向上	20	研究授業を実施し、教員の授業技術を向上させる	A	昨年度まで新型コロナウイルス感染防止のために実施を見送ってきた研究授業を3年振りに実施し、ICTを活用した授業についても学ぶ機会となった。研究授業参加者が同じ教科の教員となる傾向があり、教科の枠を超えた参加を促したい。	各教科で研究授業を実施するとともに、ICTを活用した授業実践についての情報交換を積極的に行う。
		21	計画的な研修を行い、教員の継続的な資質向上を図る	A	年度計画通り、信条教育、人権教育、生徒指導について校内教職員研修を外部から講師を招いて2回ずつ実施し、多様化する教育課題についての理解を深めた。	講師を招いて校内教職員研修を実施し、多様化する教育課題について共通理解を図る。また、校内での役割に応じて必要となる資質能力の向上のため、オンライン研修を含め校外研修への参加を促す。
学校運営	広報活動の推進	22	HP、新聞、学校説明会等で広報活動を積極的に行う	A	ホームページの更新、学校新聞の発行等により学校に関する情報を迅速かつ正確に伝えた。特に、ホームページの更新については回数を増やすことができた。また、学校案内を発行し、広範囲に配布して広報活動に役立てた。中学校や塾、合同説明会など多くの場で、学校紹介をした。	ホームページの更新、新聞の発行等により学校に関する情報を迅速かつ正確に伝える。特に、ホームページの更新は即時性が求められるため、さらに迅速な対応に努める。また、学校紹介の場を増やし、クラブの学校訪問などと連携をとっていく。
	校務分掌の組織的な運営	23	校務が円滑に推進できるように、適切な役割分担、組織的な運営を行う	B	校務分掌の適切な割り振りに努め、各部署の責任者を中心とした組織的な学校運営に努めた。1人の教職員が担当する校務分掌が多く、校務分掌の整理・見直しを検討する必要がある。	限りあるリソースを有効活用し、効果的な教育活動を行うことができるように、優先すべき業務についての検討を進め、業務の役割分担の適正化を図る。
	安全管理教育の推進	24	外来者の対応（受付等）は適切に行う	A	来校の目的に応じ、柔軟に対応を行っているが、連絡の無い予期せぬ来訪については窓口にて時間を要する場合も生じているため、工夫の必要性がある。	可能であれば、その日の来訪予定を事務室へ連絡してもらえよう呼びかけを行う。例えば年に数回、日報等で連絡の必要性を呼びかけ、また、教職員のその日の動向を可能な限り把握するよう努める。
		25	情報機器の安全教育、登下校時の安全教育を行う	B	進路指導上で必要となった携帯電話の正しい使用方法を引き続き指導した。また、SNS上での不意な発言を厳に慎むように指導した。	進路指導上で携帯電話が必要となり、所持を認めているが、SNS上での不意な発言がいじめに繋がらないように、正しい使用方法を引き続き指導する。
		26	事故、事件、災害などの防災や危機対応に取り組む	B	適切な避難経路を常に意識しておくとともに、安全教育と避難訓練を実施した。	地震や火災を想定した避難訓練を実施し、教職員や生徒の危機管理意識をさらに高めるように努める。